

10月



千葉市花見川



## あの日のあの川 リレー日記 ~第82話~



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第82話主人公 菊池恭士朗

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県利根川)

### 「あの秘密の場所」

いつのこと？：小学生のころ

どこの川？：花見川（千葉県千葉市）

こんにちは。白川研究室所属の菊池です。「あの日あの川」ということで自分が小学生だったころによく遊んでいた家からすぐ近くの川である花見川が思い浮かんだのでその思い出についてお話をさせていただこうと思います。

いつも遊んでいた川沿いの公園。そこにはたくさんの小学生が集まっていて一緒に遊んだりもしていました。帰宅してはランドセルを放り投げて公園に向かい、鬼ごっこをしたりサッカーをしたりで過ごす日々でした。3年生の夏ごろ、そんな同じような毎日

を一変させる刺激的な経験がありました。ある日、いつものように公園で遊んでいたのですが、6年生の近所のお兄ちゃんもその公園で遊んでいました。ちょっと休憩をしていると突然、そのお兄ちゃんが「いいところ連れて行ってやるよ」と言い出しました。お兄ちゃんに連れられて裏道のような路地を抜けると目の前に花見川が広がっていました。僕らにとっては初めての川の世界への入り口でした。

その日から僕たちはその秘密の場所の常連になりました。水かさがぐっと減る時があり、普段は見ることができない川底が見える日がチャンスでした。夏の暑い中、ひんやりとした水や泥の感触、カニや小さい魚などの普段は見つけることのできない生物など飽きることのない世界でした。川の中には忘れ去られてしまったような自転車やタイヤ、靴などのごみが沈んでいたりしました。大人からしてればただのゴミで環境的にもよくないことだったかもしれません、あの頃の僕たちにとっては見つけるだけで楽しくてまるで宝探しでした。そしてその見つけた宝物をどんな人が置いていったのかとかどうしてここにあるのかなんてことを考えることもなぞ解きをしているみたいでとても楽しい遊びになり、飽きることを忘れさせてくれました。川そのものが楽しくなった僕たちは水嵩が多い日は釣りをしているおっちゃんにどんなのが釣れるのか、どうやって釣るのかを教えてもらったりもしました。

しかしそんな日は永遠ではなく、僕らにとって隊長のような存在だったお兄ちゃんも卒業してしまい、この秘密の場所もなんだか遠いものに感じてしまい、徐々にいかなくなってしまいました。そして自分が6年生になった夏、ふとあの夏を思い出し、弟とその友達を連れてあの場所へ向かいました。その時の弟たちの楽しそうな表情だったり新鮮なアクションは初めてこの場所に来たことを思い出させてくれました。あの頃あんなに大人に感じたお兄ちゃんと同じように今自分もこの場所を伝えていると思うと少しだけ大人に近づいたような気がしてうれしかったのを覚えています。

今思うと少し危なかったかななんて思います、地元にこんな経験をさせてくれる環境があって恵まれていたなと感じます。あの頃と同じ気持ちで川で遊ぶことはもうなかなかできませんが、このような機会をいただいて思い出を書き起こすことで鮮明に思い出すことができてうれしく思います。ありがとうございました。

(次は戸田一歩君にバトンを託します)